

お祖師さまの教えを先師先聖物語 第4回



「お祖師さまの行くところ、常に日朗あり」と「師孝第一」といわれる日朗上人。文永八年（一二七一）、お祖師さまが竜の口法難と佐渡ヶ島流罪の刑に処せられた時、多くのお弟子やご信者方も理由なく罪にとわれたんだ。日朗上人も幕府の役人の宿屋光則の屋敷にある「土牢」に閉じ込められたんだ。今回は、この「土牢」のお話と佐渡ヶ島に「ご赦免状」を持参されたお話だよ。

日朗上人 ②

鎌倉で人々に御題目を弘められていたお祖師さま（日蓮聖人）。文永八年（一二七一）、鎌倉幕府の不当な理由（当時の幕府は念仏宗の信心を応援していた）により捕らえられ、鎌倉・竜の口（処刑場）で処刑されることになったんだ。

また、鎌倉にいたお祖師さまのお弟子・日朗上人や、他のお弟子、ご信者方も同時に捕らえられてしまったんだ。

日朗上人は、鎌倉幕府の執権・北条時頼に仕えていた宿谷光則というお役人の屋敷にあった「土牢」に独り閉じ込められたんだ。この時、日朗上人はお祖師さまと同じ罪（斬首・首を切る）をお与え下さいと望んだといわれているんだ。本当にお師



ご赦免状を持参してお祖師さまのもとへ

られたといわれているんだ。
お祖師さまのみ教えに深く帰依した宿谷光則は、後に日朗上人を開基として、自らの屋敷をお寺（光則寺）にしたんだよ。

命がけでご赦免状を持参して...

文永十一年（一二七四）の二月十四日、お祖師さまの佐渡ヶ島の流罪（罪人を辺境や島に送る追放刑）が赦免（罪や過ちが許されること）されたんだ。そして鎌倉幕府は、この知らせ（赦免状）を、お弟子の日朗上人に持って行くよう命じたんだ。

赦免状を持参した日朗上人は、新潟の寺泊を船で出発したんだけど、大波に流され佐渡ヶ島の小木浜という所に漂着。奇跡的に一命を取りとめたんだ。日朗上人は「お祖師さまのもとに早く」と急ぐんだけど、今度は、小木から小佐渡の山を越えていくうちに日が暮れてしまったんだ。そして、これまでの長旅の疲れか、雪の中に倒れ込んでしまったんだ。

「一時も早く、お師匠さまにお知らせしたいのに...。ああ南無妙法蓮華経！」

するとそこへ偶然にも、お祖師さまとお弟子の日興上人が通りかかれたんだ。そして、どこかで聞いたことのある御題目の声が聞こえてきたので、日興上人が近づいてみると、なんと日朗上人が御題目をお唱えしながら倒れていたんだ。

こうして日朗上人は無事にお祖師さまにご赦免状をお渡しすることができたんだ。

匠さま（日蓮聖人）への思い厚いお弟子だったんだね。

お祖師さまは、竜の口での処刑を不思議な出来事として逃れられ、次に佐渡ヶ島（新潟県）に配流されることになったんだ。日朗上人は、文永八年（一二七一）から同十一年（一二七四）の二月までのおよそ三年半の間、宿谷光則の屋敷の土牢に入っていたんだ。

この三年半の間、お祖師さまと日朗上人の師弟の愛を、見たり聞いたりしていた宿谷光則は、二人のご信心の絆に深く感激して、御題目のご信者となったんだ。

そんな宿谷光則の気づかぬ間に日朗上人は、ひそかに土牢を抜け出し、遠き佐渡ヶ島まで、お祖師さまを実に八回も訪ね



日朗上人が捕らえられていた「土牢」



宿谷光則は御題目の信者となり、屋敷を「光則寺」とした